

県央

ミニミニミニ

児童福祉週間を前に、宮崎市役所1階に、子育て情報誌など集めた特設コーナー。

月明かりに勇壮な武者が登場。29日から綾町で始まる糸山まつりのポスター完成。

18日まで開催中。宮崎市中央公園のUMKギャラリーで「日曜水彩の会」による絵画展。

難病のめまいに60年の経験で、おた

田 野 町

漢方のしがき

旧道269号線沿 JA宮崎中央田野支店・西

TEL0985-86-00

■定休日:第1・3・5日曜日

内にある国有林の被害体積は3千立方メートル(2015年度)を超え、14年度に比べると20倍以上の爆発的な伸び。宮崎森林管理署と綾町が、綾の森の象徴であるイチイガシなどに被害防止の薬剤を注入した。ナラ枯れは体長5センチほどの昆虫が持ち込むカビの一種が原因で、木を枯死させる。

鬼の洗濯板

同社は毎年、設へ遊具を寄贈している。平木社長は「子どもの貧困の理由も多岐にわたる。継続的な支援がある」と話した。

富園の若者雇用優良な環境

県内初の厚労省認定

富園の障害者支援施設「エデンの園」(川越瑞枝理事長)は、若者の採用・育成に積極的に雇用管理の優良な企業などを認定する厚生労働省の「ユースエール認定企業」に県内で初めて選ばれた。



新人研修で白杖(はくじょう)歩行訓練を受けるエデンの園の若手職員たち

制度は、青少年の雇用の促進等に関する法律(若者雇用

促進法)に基づき、2015年10月から開始。直近3事業年度の新卒採用者の離職率が20%以下であることや、有休取得率が年平均70%以上など12項目を全て満たすと、認定を受けることができる。同園の認定は3月28日付。同園は1978(昭和53)年に開園し、従業員85人。3カ月間の新人研修、採用後2年間は先輩職員を交えて定期的に面接を行う新人フォローアップ事業を実施。資格取得者にお祝い金も出しており、宇都宮知敬法人事務局長は「若い世代が誇りを持って働ける職場づくりを進めたい」と話している。

認定企業は商品や広告などに認定マークを表示でき、対外的にアピールできるほか、若者の採用・育成を支援する関係助成金で加算を受けられる。(山下仁志)

初の一時預かり開始

宮崎市の「みやざき子育て支援センター」(宮崎市宮崎駅東3丁目)は、今月から一時預かり事業をスタートさせている。保育士が常駐し、未就学児を最大3時間、有料で預かる。子育て中の保護者の負担軽減が目的

みやざき子育て支援センター

減に活用を

り、1時間500円の料金を1日3時間まで預けることができる。保護者のリフレッシュやきょうだいの参観日、通院やシヨッピングなど預ける理由は問わない。同センターは、市内に35カ所ある地域子育て支援センターの一つとして昨年12月に開設。保育士による育児相談や、親子

で体験できる講座を開催するなど、子育て世代の交流の場になっている。1日平均50人の利用があり、一時預かりを望む声が上がっていたという。事業がスタートした11日、友人の送別会に参加するため長男(1)を2時間預けた同市下原町の母(33)は「民間の保育園

50。(島田真恵)

子ども貧困へ三紘が寄付金

子どもの貧困対策に役立ててもらおうと、建設業などを手掛ける三紘(宮崎市村角町、平木泰英社長)は、宮崎市に500万円をこのほど寄贈した。写真。

市役所であった贈呈式には、平木社長ら関係者3人が戸敷正市長を訪問し、目録を贈呈。戸敷市長は感謝状を手渡し「子どもたちの明るい未来のために、十分に活用させていただきます」と礼を述べた。



市民川柳大会に1116句応募

間瀬田さん最高賞

第47回宮崎市民川柳大会(市芸術文化連盟主催)は宮崎中央公民館(このほどあ

った。県内外の16句の応募がの宮崎市長賞は上絵師、間瀬田ケットの鎮静刺が選ばれた。ほ

市議会議員賞(山くると子供眼)長賞(真鳥久美子)の火(西ほたか)課長賞(キッセル)番賞(色瀬せと)宵(吉岡野花)ハビリスの言葉(植田のりとし)盟会長賞(古本)講(宮信)